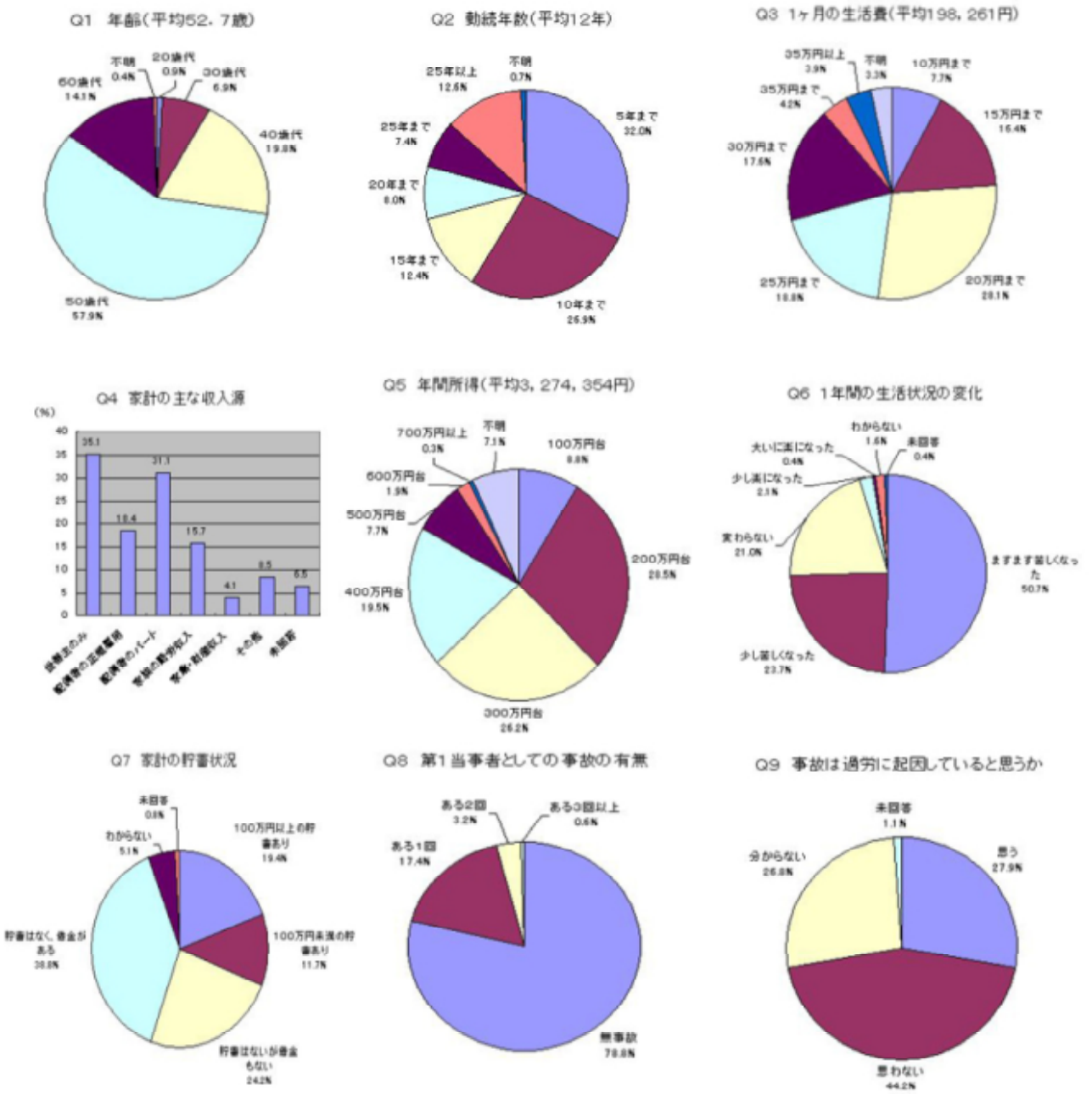
全自交 2007 春闘、生活・労働実態調査

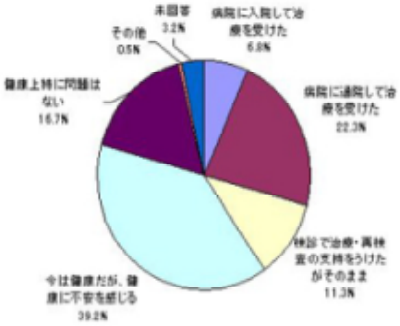
最低生活費も得られない実態が明らかに

2007 年春闘、生活・労働実態調査
グラフ分析：全自交労連の「2007 春闘、生活・労働実態調査」の集計結果がまとまりました。平均年齢では前年より 1.6 歳上昇して 52.7 歳に、逆に勤続年数は前年より 0.6 年短くなって 12 年という結果が示されましたが、これは新規雇用者の高齢化を示しています。
　平均年収は対前年比 17 万円余の増加になっていますが、その反面平均生計費は 3 万円ほど低下して 20 万円を割り込みました。社会保険や税負担増が生計費を圧迫しているようです。このため半数の人がこの 1 年間の生活状況の変化で「ますます苦しくなった」と答えています。そして老後に不安を感じている人は 87.2 %にのぼっています。　この厳しい生活実態は、直面している運賃改定において、その増収分を賃金労働条件に確実に充当すべきことを表しています

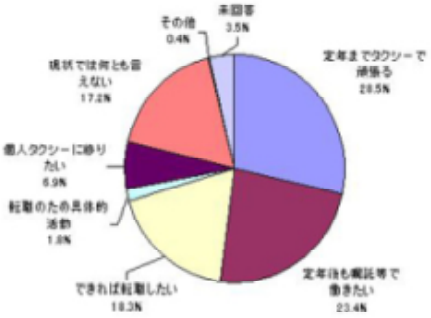


Q10 無事故者に聞く。事故を起こしそうでヒヤリとしたことはあったか

Q11 健康状態



Q12 今後もタクシー乗務員を続けますか



Q13 定年退職後の生活展望